

題 総意に基づく政治であるために

氏名 鷹羽 登久子

9月の廣瀬先生のセミナーにおける実習で、コンセンサスの難しさを体験した。議論の過程では、個々の価値観や判断基準、ものごとの捉え方などが露になり、まずそれを互いに落とし込むことから始めた。きっと私だけではなく、参加者の多くが合意形成は難しいと感じたことだろう。今の仕事に就いた当初、先輩が「議会はコンセンサスの場だ」と述べたのを聞いた。何かのあいさつの折だったように記憶している。なるほど、と思った反面、果たして今までそうであったのか、という疑念を持ったのも正直なところだ。

コンセンサスを辞書で引いてみると、ナショナルコンセンサス＝国民の合意、コンセンサスポリティックス＝総意に基づく政治 などとある。例えばコンプライアンスなどは昨今よく耳にするし一般的な言葉になってきているように感じるが、コンセンサスについては、国立国語研究所によると意味がわかるのは25%だという。まだ政治用語、ビジネス用語に限定されがちということだろう。だからこそ、政治大学院生として、避けて通れない単語ということもできる。

議員は選挙をもって信託される。信託を受ける際に、議員個人の考えや経験値に支持者の思いが加わり代表としての信念、思想を持つ。そのようなそれぞれ異なる下地を持ち、その下地から築きあげてきた信念や思想を以って政策を論じ合う場が議会であるならば、そこで互いに主張しあうばかりでは議論にならないし結論は導きだせない。従って論じ合う中に冷静に互いの思い（＝信念・思想）を汲み取ったうえで、できる限りの合意をもとに政策（＝手段）を決定していく。まさにこの通りならばなるほど先輩のおっしゃるとおり、と合点がいく。ところが、信念や思想以前に、会派・派閥内での上意下達が優先されてはいないか。政治家が「どの集団に属するか選択した時点で信念や思想は足かせとなる。まずは大勢に従うものだ。」と考えてはいけないと思うが、実際そのような議員がいて、そういった議員を歓迎する風潮もまだ一部に根強いのではないか。杞憂と思いたいが、これが先輩の言に疑念を持った所以である。

この疑念を払拭し、文字通りコンセンサスポリティックスを成立させるにはどうすべきか。それは議論の過程をオープンにしていくことではないだろうか。政治における議論の場は、上意下達のような一方の意見を通すための形式上の場であってはならない。政治が主権在民であるためにも、合意の過程を明らかにする政治家と、過程を注視し参加する民が不可欠だ。確かに合意形成は難しい。しかしコンセンサスの醸成にこだわる先には、お任せ民主主義からの脱出が見えている。

参考・引用；プログレッシブ英和辞典「consensus」、三省堂辞書サイト 10分でわかるカタカナ語 <http://dictionary.sanseido-publ.co.jp/topic/10minnw/032consensus.html>